

<熊本支部例会事前抄録>

日時：2019年1月22日(火)19:30～

会場：添島歯科クリニック研修室

- 一般講演抄録 2 -

径の細いインプラントを用いたインプラント支持局部義歯の1症例

添島歯科医院 添島義樹 〒860-0805 熊本市中央区桜町1-28

略歴

1992年 東京歯科大学卒業

2010年 添島歯科医院継承開業

所属団体

日本臨床歯科医学会 熊本支部

日本口腔インプラント学会専門医

日本歯周病学会

日本口腔検査学会

ITI フェロー

抄録

インプラント治療は、その表面性状および周辺機器の開発、手技の確立によって欠損修復の一手法として日常臨床に欠かせないものになりつつある。治療計画を立案する際には、患者の社会的背景や口腔内の解剖学的な特徴を含んだ局所的な条件を鑑み、患者の要望と術者の考えをすり合わせながら補綴設計を決定していかねばならない。

患者は2008年12月の初診時67歳、上下欠損修復を希望して来院。上顎は前歯歯冠修復と局部義歯、下顎はインプラントオーバーデンチャーを装着して治療を終了した。その後、定期的な経過観察を行っていたが2015年11月に上顎の再治療を希望された。その際、提示した治療計画の中からインプラント支持局部義歯を選択した。

現在、下顎無歯顎におけるインプラントオーバーデンチャーは2002年のMcGill コンセンサスにおいて標準的治療かつ第一選択と定義づけられている。一方、インプラント支持局部義歯においては十分なコンセンサスは得られていないのが現状であるが、臨床的には有用な手法だと考えている。今回、症例を提示し諸先生方のご意見、ご指導を仰ぎたい。